

みどりの エッセイ

Vol.18

武田双雲

「書道家」



森林ってスゴイって 興奮して伝えたい

小学校低学年の頃は、よく地元(熊本)の友達と家から二時間以上かけて、森林まで遊びに行っていました。そこに小さな湖があったんですけど、深さが三メートル以上あるんです。枝で傷だらけになりながらも木に登って、その湖に飛びこむんですけど、海へびみたいなのが泳いでいたりして、あの体験は自分の中に強烈に残っています。休みのたびに行ってたけど、今、考えると何なんだろう？ あのエネルギー(笑)。たぶん森林の魅力、自然の魅力なんでしょうね。本能が呼び起こされる感じでした。

熊本には十八年住んでいて、大学時代には千葉の野田市、NIT時代は横浜、この八年ぐらいいは湘南に住んでいます。湘南はいいですよ。観光客が多くて、楽しみに来るから、駅に着くとみんなニコニコしてるんです。東京は刺激を求める街だけどもっと力が抜けてますね。僕は人間は環境に影響される生きものだと思います。書道もコンクリートの都会のマンションで書くのと自然の風を感じながら書くのでは違うんじゃないかな。

今、住んでいる家はNPOの森林の仲間と一緒に二年前に建てました。

気ばった感じではなく、できれば国産材を使ってシンプルな家にしてください”って注文したんです。昔は輸入材が安かったんでしようけど、その時は、そんなに国産材と値段が変わらなかつたんですよね。あと、自分の家は毎日、五〇〇人ぐらいの人たちが行き来するので、みんなが癒されて元気になるような家にしてください。一〇〇年後にいい味が出るようにしてください”ってリクエストしました。結果、僕もふくめてみんな癒されています。

木の香りや感触って心にもいいと思うんです。森林ってスゴイんですよ。人間の呼吸を助けてくれて、土に水を貯めてくれる。生活の基盤をコントロールする最高のコーディネーターだと思います。押しつけにならないよう、木ってすげえよ”って興奮しながら伝えていきたいです。若い人たちが、”マジっすか？”って驚くような感じで(笑)。

〈プロフィール〉

武田双雲 (たけだ そううん)

昭和50年熊本県熊本市生まれ。3歳の時から母である書家、武田双葉氏に師事。東京理科大学理工学部を卒業したのち、NTTに入社し、2001年に独立後、書道家に。音楽フェスなどでのパフォーマンス書道でも話題を集める。現在は湘南を基盤に創作活動中で、書道教室の門下生は250名を超える。著書も「たのしか」「ひらく言葉」など多数。2008年には興正寺五重塔200周年献書。すべての活動の基盤に「感動と元気」を置いている。